

## シジュウカラガンが教えてくれる、 自然と共生するまちづくり

かつて多賀城の水田地帯には、冬季になると渡り鳥のシジュウカラガンが飛来していました。その姿は地域の自然環境の豊かさを示すものであり、住民にとっても季節の風景の一部として親しまれていました。しかし、都市化や環境の変化により、長らくその姿は見られなくなっていました。

令和3年（2021年）1月、関係者の努力により約90年ぶりに多賀城においても、シジュウカラガンが確認されました。これは、地域の自然環境が改善されつつあることを示す重要な出来事です。シジュウカラガンは環境の変化に敏感な鳥であり、良好な水辺環境や生態系が整っていなければ飛来しません。そのため、彼らの再来は、地域の環境保全の成果を示す指標の一つといえます。

一方で、地球規模では温暖化が進行し、気候変動による生態系への影響が深刻化しています。こうした状況の中で、地域レベルでの環境保全の取り組みはますます重要になっています。

多賀城市では、環境行政の最上位計画である多賀城市環境基本計画に基づき環境保全の取り組みを推進しています。特に、猛暑日の増加、大型台風の増加等、異常気象を誘発する地球温暖化対策は急務となっており、本市では、多賀城市地球温暖化対策実行計画（事務事業編及び区域施策編）を策定し、身近なところからできる地球温暖化対策を推進しています。

これからも、自然と調和したまちづくりを進めていくこと。それは、私たちが未来に誇れる多賀城を築くための、大切な一歩です。

その一歩は、日々の暮らしの中の小さな行動から始まります。たとえば、電気をこまめに消す、マイバッグを使う、公共交通を利用する、地域の自然に目を向ける—そんな身近な行動が、環境を守る力になります。

市民一人ひとりの意識と行動が、地域の環境を支え、次の世代へとつながっていきます。私たちの暮らしの中にある「できること」から、持続可能な未来を一緒に育てていきましょう。



シジュウカラガン（戸島潤氏提供）



2021年1月に多賀城市新田字下で観察されたシジュウカラガン（平泉秀樹氏提供）